

令和7年度 学校評価 中間評価

<p>本年度の重点目標</p>		<p>【スローガン】</p> <p>「自分がすき・みんながすき・学校がすき」</p> <p>① 安全で安心して学べる学校づくり</p> <p>② 働きやすい職場づくり</p> <p>③ 個に応じた指導の充実</p> <p>④ つながりのある教育活動の実践</p>	
項目 担当	重 点 目 標	具 体 的 方 策	中 間 評 価
総 務	④校内掲示板や広報活動の充実	・学校だよりやホームページ、グループウェアを有効活用する。	・他校の学校だより等も参考にし、内容や掲載方法を工夫して年間3回の発行とした。カラーでよりきれいな紙面を見ていただけるようにすること、また、印刷業務を削減できることをねらい、学校だよりを学校ホームページに掲載するようにした。掲載するにあたり、パスワードを設定して個人情報保護の措置を徹底した。今後、発送業務を最小限にしていけるよう、他校の状況を把握しながら検討を進めていく。
教 務	④つながりのある教育活動の実践	・小学部、中学部、高等部のつながりのある教育課程を目指し、児童生徒の実態を踏まえつつ検討を進める。教科・領域会を中心に3部間の指導内容の系統性や教科の横断性を盛り込んだ年間指導計画を検討していく。	・部をわたる学校行事の連続性については、生活単元学習の領域会を中心に整理、検討を進めている。また、各教科・領域を合わせた指導については、関連する教科の指導内容に偏りが生じないよう、学習指導要領と照らし合わせ、年間指導計画に改善が加えられるように検討を進めつつ、系統性や横断性について整えていく。
生 徒 指 導	①防災計画の見直しを図る ①いじめの防止	・巨大地震の発生に備え、身を守るための具体的な行動や避難方法などを計画し、児童生徒、教職員に周知する。 ・学校いじめ防止基本方針に基づき、児童生徒相互が好ましい人間関係をつくれるようにする。	・訓練を通して、児童生徒や職員に身を守るための具体的な行動を周知できた。これまでの訓練で挙がった課題を早急に整理し、今後の訓練計画の立案やマニュアルの見直しにつなげ、学校全体の防災意識を高めていきたい。 ・いじめ・不登校対策委員会や職員同士の日常的な会話から、児童生徒の情報共有を行い、問題の早期発見や対応をとることができた。

進路指導	②キャリア教育の充実と地域連携	・進路に関わる情報発信を充実させ、校内、関係諸機関との情報交換を密に行う。	・各機関の専門家による講話会や職員向けの研修を行うことで、一定の情報発信ができた。
保健体育	①安全な教育環境の構築	・緊急時対応の体制や方法を整え、児童、生徒、職員が安全で安心できる環境を構築する。	・緊急時対応セットの内容、設置場所の見直しを行い、緊急時対応訓練等を通して職員間の情報共有を図った。
研修	③教職員の専門性の向上	・現職研修を充実させる。 ・全校研究を充実させる。	・例年実施している現職研修に加え、進路指導主事を講師とした現職研修「進路」を実施した。 ・授業のヒントを得るための授業参観を充実させるため、前期後期に約1か月の授業参観期間を設けた。
情報	②教員の情報活用技能およびセキュリティ意識の向上	・教員用タブレットパソコン、視聴覚機器等の利用について、有効活用やトラブル等への日常的なサポートを行う。 ・担任や学年、生徒指導部等との連携を密にして、情報モラル教育を進めていく。	・教職員に向けて、パソコン等の設定や視聴覚関係の機器の利用に際して、日常的に適切なサポートができた。 ・生徒指導部と情報交換をしながら、職員の情報モラルへの理解を深めることができた。
教育支援	③センター的機能の向上	・地域の保護者や教員を対象に、たんぼぼ相談や支援指導検討会等の相談活動や研修会等を実施する。	・たんぼぼ相談や巡回相談、支援・指導検討会、夏季研修会を実施した。現職研修の講師依頼もあり、今後もセンター的機能の向上を目指して幅広く地域支援活動を行っていきたい。
自立活動	③学習指導支援の充実	・一貫性、継続性のある指導を行うために、「流れ図」や年間指導計画等を活用する。	・「流れ図」や年間指導計画について、記入内容の精選を行った。 ・一貫性、継続性のある指導を行うための「流れ図」が、確実に引き継いでいける資料となるよう、様式を引き続き検討する。
小学部	③生活習慣や日常生活における基本的な力の育成	・二学年ごとの長期的な視点に立ち、PDCAサイクルに基づいた授業の改善、指導・支援の充実を図る。	・部会や主任者会を通して、重点目標の周知を図った。教務主任より、教科・領域会での取組事項として伝達し、各学年における実施内容について情報共有・収集を図っている。学年主任より、日常の指導や授業内容の見直しを進め、丁寧な指導への意識が高まりつつある。

中 学 部	①生徒全員が「分かった」「できた」「やってみよう」と思える授業づくり	・生徒の実態や障害の特性に合った題材や単元を考えたり、ＩＣＴを始めとした教材・教具の工夫や環境整備をしたりすることで生徒自身が課題を理解し、自分から取り組めるようにする。	・生徒たちの実態や日常的な様子について学年の職員間で普段から情報共有を図り、実態や興味・関心に即した課題の設定や教材の工夫等を行うことで、生徒自らが取り組もうとする姿が見られた。
高 等 部	③自立と社会参加を実現する力の育成	・学校生活におけるさまざまな行事や活動を通して、主体的に学び、課題を解決していく力を育成する。	・被服アイテムを通したプロジェクト活動を地域産業（尾州繊維業）や大学と協力して実施した。各授業での一人一台タブレットの活用など、生徒の学習意欲や興味・関心を高め主体的に学ぶことができる授業づくりに努めている。

【学校関係者評価を実施する主な項目】

項 目	中 間 評 価
○笑顔のある安全・安心な学校づくり（防災計画の見直し）	・防災訓練では、大きな地震が起こった場合に、屋外ではなく屋内に避難する方法に取り組むなど、より実際に即した避難計画を試行している。訓練後、即時に課題を集約・検討し、防災計画の見直しを図っている。また、校内での事故や発作などの緊急時に備えて、緊急時対応セットの設置箇所を増設し、システムの面からも可能な限り事故を未然に防げるようにしている。
○令和８年度小牧特支への期待感をもった円滑な移行	・小牧特別支援学校と連絡・調整しながら、４月に開設説明会、５～７月に教育相談、８月に小牧特別支援学校見学会を実施した。該当の保護者や本人からの聞き取りを丁寧に行い、小牧特支へ転籍する児童生徒を確定させることができた。今後は、転籍する児童生徒の個人データを確実に受渡しすることや、児童生徒が見通しや安心感をもって新年度を迎えられるようにすることが課題である。
○児童生徒の学びを最優先した教員業務の見直し	<p>・教員が、より一層授業や児童生徒とのかかわりに集中できる環境を整えることを目的に、１１月から下記①～⑤を実施している。</p> <p>①電話対応時間 午前８時から午後６時まで（変更前：午前７時２０分から午後６時３０分）</p> <p>②保護者向けプリント等配付方法 マチコミを利用したデータによる配付や、学校ホームページへの掲載</p> <p>③最終学校施錠時間 午後７時（変更前：午後７時３０分） ※繁忙期は申告制で午後７時３０分まで可</p> <p>④定時退校日 月に３回設定（変更前：月２回）</p> <p>⑤時間外学校携帯電話の運用 土日のみ管理職が持ち帰り必要に応じて対応 （変更前：平日夜間と土日に管理職が持ち帰り）</p>